

NO.	項目		令和6年度対計画比を踏まえた分析・考察 (要介護認定者数・要介護認定率のみ令和6年度)	備考
1	要介護認定者数(R7年度)		・認定者数及び要介護認定率ともに計画値を下回っており、わず かであるが前年実績値も下回っている。	総括表
2	要介護認定率(R7年度)		・一般介護予防事業の推進、地域における取組の進展の効果が 表れ、介護サービスによる日常生活での介護を必要としない高齢 者が増えていることが、認定率の低下につながっていると考えら れる。	
3	利用者数	施設サービス	・施設サービス全体としては、計画値をやや下回る実績となった。 ただし、令和5年度よりは増加しており、受給の適正化は進んでい ると言える。 ・介護老人福祉施設においては、重度者の受け皿としてのニーズ が継続したことにより、稼働率が向上し、利用者数は微増し、計画 値を上回る実績となったと考えられる。 ・介護医療院については、計画値には達しなかったものの、前年 実績より約倍増した。近隣市町における病床数の増加が要因とな り、地域における受け皿が拡充されたことによると推察される。医 療との役割分担が課題ともいえる。	総括表詳細(1)
4		居住系サービス	・居住系サービス全体では、若干計画値を下回ったが、ほぼ計画 通りの実績となった。比較的軽度～中重度の受け皿として機能し たと言える。供給量と需要のバランスが良かったと分析する。 ・特定施設入居者生活介護については、有料老人ホーム等の需 要が増えたことによる。 ・認知症対応型共同生活介護はやや計画未達であるが、大きな 乖離はなかった。	
5		在宅サービス	・在宅サービスの利用状況については、サービスごとに計画値と の間に大きな差異が見られた。 ＜計画を上回ったサービス(利用者増)＞ ・訪問リハビリテーション、通所リハビリテーション、特定福祉用具 販売については、医療ニーズの高まりやリハビリへの関心の増 加、さらに在宅医療と介護の連携が進展していることが、利用者 数増加の要因と考えられる。 ・定期巡回・随時対応型訪問介護看護については、利用規模が小 さいため、わずかな利用増減が比率に大きく反映されやすい傾向 にあると言える。 ＜計画を下回ったサービス(利用者減)＞ ・訪問入浴介護については、市内に1件しかない事業所が廃止し た影響によるものと、利用規模が小さいため、わずかな利用増減 が比率に大きく反映されやすい傾向にあると言える。 ・通所介護、認知症対応型通所といった通所介護系は、利用者の 医療ニーズの増加 → 通所リハへ移行及び、コロナ後も利用控え の影響が残存していたといえる。 ・小規模多機能については、制度理解不足、利用調整の難しさ、 ケアマネの選択傾向(従来サービス優先)が要因と考えられる。 ・訪問系(訪問介護・訪問看護)はやや未達であったが、リハ系へ シフトしたのと考えられる。 ・短期入所系は全体的に未達であったが、要因は感染症対応の 影響継続、家族介護の変化(利用頻度減)と考えられる。	
6	受給率	施設サービス	・受給率はほぼ利用者数に連動した実績となっているため、利用 者数の分析と同様のことが言える。	総括表詳細(2)
7		居住系サービス	・受給率はほぼ利用者数に連動した実績となっているため、利用 者数の分析と同様のことが言える。	
8		在宅サービス	・受給率はほぼ利用者数に連動した実績となっているため、利用 者数の分析と同様のことが言える。	

サービス見込量進捗管理シート

市町名: 大田原市

NO.	項目		令和6年度対計画比を踏まえた分析・考察 (要介護認定者数・要介護認定率のみ令和6年度)	備考
9	1人1月あたり利用日数・回数		- 全体として、概ね計画どおりの利用状況となっている。 - 各サービスにおいても要支援・要介護認定者の和は計画どおりとなっている。	総括表詳細(3)
10	受給者1人あたり給付費	施設サービス	- 施設サービス全体では、概ね計画値どおりの実績となっている。 - 介護医療院について、計画を若干上回っているが、想定していたよりも重い介護度の方が利用していると思われる。	総括表詳細(4)
11		居住系サービス	- 居住系サービス全体では、概ね計画値どおりの実績となっている。 - サービス内容が比較的標準化されており、利用者像も大きく変化していないといえる。	
12		在宅サービス	- 在宅サービス全体では、概ね計画値どおりの実績となっている。 - 訪問入浴、訪問看護、地域密着型通所介護、特定福祉用具販売、小規模多機能については、計画と比較して単価が上昇しているが、その理由は、在宅での看取り・重度対応の増加、医療ニーズの増大、多機能型サービスの包括的利用が考えられる。 - 訪問介護、訪問リハ、通所介護、通所リハ、居宅療養管理指導、住宅改修については、単価が低下しているが、想定よりも介護度の軽い方の利用割合が高いと思われる。定期巡回については、利用規模が小さいため、わずかな利用増減が比率に大きく反映されやすい傾向にあると言える。	
13	給付費	施設サービス	- 介護老人福祉施設、介護老人保健施設においては、稼働率向上、待機者需要の反映により、計画値を上回っている。 - 介護医療院については、令和5年度と比較して給付費がほぼ倍増となったが、需要見込が過大で、利用者数が計画値を下回る実績となったことから、計画額より給付費が下回った。	総括表詳細(5)
14		居住系サービス	特定施設入居者生活介護については、利用者数が計画値を上回ったことにより、給付費が計画よりも高かった一方で、認知症対応型共同生活介護は入所者数が計画値ほどは伸びなかったため、居住系サービス全体で若干計画値を下回った。	
15		在宅サービス	- 在宅サービス全体の給付費としては、計画値を下回った。 - 訪問入浴、居宅療養管理指導、通所介護、短期入所(老健)、認知症対応型通所介護はいずれも利用者数が計画より減少していたことにより、給付費も計画を下回った。 - 住宅改修は、受給者1人あたり給付費について、計画値より実績値が下回ったことにより、給付費も計画を下回った。 - 定期巡回・随時対応型訪問介護看護、看護小規模多機能型居宅介護については、利用規模が小さいため、わずかな利用増減が比率に大きく反映されやすい傾向にあると言える。 - 一方、訪問リハ、通所リハ、特定福祉用具販売は、利用者が増加したことにより、給付費が計画を上回った。	